

南アフリカ 生食用ブドウの安定的な収穫を予想

[FreshFruitPortal](#) 2025年9月26日

南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)は今シーズン(10月～)の第1回目の収穫予測で、「シーズンを通じて市場の需要に見合った品質と量の収穫が予想される」としている。

同協会は、総収穫量を7,940万箱(4.5kg/箱)と見積もっており、これは昨年の7,890万箱よりも多い。予測の最大値は8,170万箱、最小値は7,700万箱である。

生食用ブドウの総栽培面積は横ばいだが、同国の生産量は緩やかな増加を続けており、これは主に新世代の多収性品種の新植によって牽引されている。

同協会は、「2025年の総栽培面積は1万9,400ヘクタールで、2024年から0.4%の微減となるが、この数字は過去5年間の平均値を3%下回る水準での安定化を示すものである」としている。

報告書は、南アフリカの北部諸州とオリファンツ川流域では、総栽培面積がそれぞれ14%及び5%減少したため、収穫量の減少を見込んでいる。

同協会は、過去最高であった昨年の輸出量に比べ、今シーズンの輸出量はさらに1%増加するが、伸び率としては鈍化すると予測している。

昨年は、出荷の大半が欧州連合と英国に向けられ、それぞれ輸出量の58%及び18%を占めた。北米、すなわち米国とカナダには合計740万箱が出荷され、前シーズン比で25%の増加となった。

メキシコ アボカド輸出の新たな動力源は日本と中東

[FreshPlaza](#) 2025年9月30日

ハリスコ州の出荷シーズンは前向きかつ着実に進行している。DGフレッシュグループの関係者らは、生産、梱包、物流をカバーする垂直統合戦略が、シーズン中の一貫した運営に貢献していると指摘する。

同社は、「シーズンを通じて、取引先に高品質な果実を安定的に供給することができた」として、果樹園と梱包施設の統合の重要性を強調した。「弊社の現場では、収量と栽培管理を最適化するため、施肥灌漑技術と遠隔監視システムを使用してきた。梱包面では、より効率的な包装ラインや、遠隔温度制御を備えた冷蔵室などの支援施設に投資しており、貯蔵中と輸送中の即時の調整が可能となっている。」(同社、以下同じ)

今シーズンの主な輸出先は、米国、カナダ、日本、中東であった。「弊社の製品は、米国農務省、グローバルGAP、SMETAなどの国際基準に準拠しており、果実の品質、トレーサビリティ、食品の安全性を保証できる。」米国は依然として主要市場であり、日本、中東、カナダでは一貫した成長が見られた。「地理的な多様化により、リスクのバランスをとり、様々な季節や消費グループにわたる販売機会をも活用することができる。」

しかし、このシーズンには課題も見られた。「不安定な天候、国際物流コストの上昇、一部の市場での需要の減少を経験した。導入される可能性のある新しい関税の時期と金額を予測することは非常に困難であるため、起こり得る変化を予想することに努めた。」

これらの課題にもかかわらず、同社はサプライチェーンの回復力と生産者及び取引先との強いつながりを強調する。「技術の革新、業務の統合、それに関係者との強固な連携のおかげで、品質や契約内容を損なうことなく障害を乗り越えることができた。」同社は、国際市場へのさらなる拡大により、将来の成長に大きな可能性があると考えている。この自信の背景には、森林再生への取り組み、効果的な水管理、持続可能性への取り組みを強調する社会プログラムがある。

人々がより健康的で自然な食品を求める中、世界のアボカド消費量は増加し続ける。このような環境下で、同社は着実に収益性の高い成長を見込んでいる。

執筆者: ダイアナ・サジャミ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)